

私たちの仕事は、特別な日を創ることです

# CERESPO

## NEWS

vol.  
93

June  
2017

セレスポ

セレスポ・ニュース  
平成 29 年 6 月発行  
第 92 号

NTN presents

第 20 回 Tour of Japan

## チーム力で勝利をつかみ取る 国内最大級の 自転車レースイベント



セレスポ  
Pick Up

サステナブルイベントセミナー  
「車いす体験セミナー」  
開催



チーム力で勝利をつかみ取る  
国内最大級の  
自転車レースイベント



# Tour of Japan 2017

毎年5月は自転車月間。自転車利用の意識を高めよう! と各地でさまざまな活動が行われます。其中最も大きなイベントが「Tour of Japan」。毎年5月中旬から下旬にかけて開催されています。今回は、三重県いなべ市で行われた第3ステージの様をお伝えします。

## 国際的な連盟にも認められた 大型の自転車競技イベント

Tour of Japan は元々「国際サイクルロードレース」として1980年初頭から開催されていました。1995年に国際自転車競技連合の認可を受け、日本国内で最大級の自転車競技レース「Tour of Japan」として1996年に再スタートしました。

第20回目となる今回も、イタリアやイラン、アメリカ、日本から集まった16の強豪チームが参戦。5月21日から5月28日の間、堺から東京まで8箇所のステージを駆け抜けました。3日に開催された三重県のいなべステージは平日火曜の開催ながら、数多くのギャラリーが集まり「国内最大級」であることが感じ取れました。



Interview



## 小さな積み重ねを翌年に生かしていく

今回、TOJいなべステージの運営業者選考にあたり、セレスポさんの「迅速な対応力」「警備誘導計画」「積極的な企画提案」等が審査員に評価され、総合得点が最も高かったため、「第20回TOJいなべステージ」のサポートをお願いすることになりました。

この大会は一般道を利用するため、広い範囲で交通規制を行う必要があり、地域の皆さまの理解があって開催可能となります。選手や大会関係者、観戦者、住民間でトラブル・事故は絶対に起こしてはいけないと思っていました。そのため、コース沿線の企業や住民への周知活動や規制・誘導を担当する警備員・交通規制員や機材の配置に気を配りました。

セレスポさんが何度も現地に足を運んで、交通規制告知看板の配置案や交通規制計画を作成いただいたこと、懸念事項を指摘し対応いただいたことが、大会の安全性の向上に役立ったと感じています。大会前日に判明した問題点もセレスポさんの素早い対応の結果、大事に至りませんでした。

Tour of Japanは来年以降も開催されます。今回よかったからそれで安心ではなく、毎年の積み重ねを翌年、また翌年と生かしていかなければなりません。こうした小さなカイゼンを積み重ねていくことで、イベントとしての完成度が高まり、観戦者の満足につながっていくと考えています。

いなべ市役所 商工観光課  
藤田 剛史(ふじた たけふみ)さま

大会終了後、反省意見を集約する等、既に次回大会に向けた取組みを始めています。次回の運営業者選考でセレスポさんがどんな提案してくれるのか楽しみにしています。



いなべ市役所 商工観光課のみなさま(右から2人目が藤田さま)



## 常に「何のために やっているのか」を 考えて進める



株式会社セレスポ  
三重営業所  
園浦 知之  
(そのうち、なほみ)

本イベントでは運営や警備などを担当しました。一般道を利用したイベントでしたので、特に警備には気を遣いました。地元のかたはもちろん、近隣のかたにもご迷惑がかからないよう、円滑に人や車両が誘導できるように計画しました。

スポーツイベントに限らず、安全性はイベント開催において最優先されるべき事項です。本イベントは選手と観客、またパレード参加者など多くの人、車両が関わり、短時間で長距離を移動します。誘導ミスはもちろん、事故や怪我が発生してしまえば、それだけ選手や観客の楽しさも減ってしまいます。次のステージ以降のレースにも影響が出てしまうかもしれません。

「絶対に事故を起こさない」「イベントを存分に楽しんでもらう」、こうした責任、想いを一つひとつ確実にこなしていくこと。そして常に「この業務は何のためにやっているのか」を考える。イベントの目的を見失わない、どうすればイベントが成功するのかなど、当日だけではなく当日までの準備期間から注意を払って進めていくことはとても大事です。

本イベントも大きな事故は起きず、無事次のステージにつなげることができました。これも警備や運営を担当してくれたスタッフ、いなべ市のみなさん含め主催者のかたがた、選手や応援にかけつけてくれた観客のみなさんのおかげだと思っています。イベントが無事終わり、主催者さまから「ありがとう」と言われたときは本当にやっていて良かった！と思います。



強い日差しの中、心地よい風が吹き抜け、天気にも恵まれました。スタート地点の阿下喜駅には、阿下喜のゆるキャラ「アゲッキー」も駆けつけ、堺、京都ステージを終え、いなべステージに挑もうとしている選手たちを激励していました。

スタートイベントではサイクルウェアに身を包んだ鈴木英敬三重県知事、日沖靖いなべ市長が登場。本イベントを通して、自転車競技や三重県への期待を語り、スタートパレードを走りました。



鈴木知事(左)と日沖市長(右)

## 自転車競技は個人と チームの力が生きる!

いなべステージでは、三重の隣県である和歌山に本拠を置く「KINAN Cycling Team (キナンサイクリングチーム)」がホームチームとして地元の期待を背負って出走。同チームは2015年に結成したまだ若いチームですが、ツール・ド・フィリピンでの総合優勝や Tour of Japan の



KINAN Cycling Team



初山翔選手(左)とCANOLA選手(右)

ステージ優勝など国際的なレースで上位に食い込むほか、過酷さで有名な「ジロ・デ・イタリア」を完走した山本元喜選手が所属する実力のあるチームです。

キナンチームをはじめ強豪チームが揃う中、全行程 127km のいなべステージを制したのは「NIPPO・ヴィーニファンティーニ」に所属する Marco CANOLA 選手。京都ステージや南信州ステージでもトップでゴールして実力を示した結果、すべてのステージを終えて、個人総合ポイント賞を獲得しました。

高低差が 150m 以上あり勾配も最大で 17% と選手たちにとって厳しいコースで山岳賞を受賞したのは「ブリジストンアンカーサイクリングチーム」に所属する日本人、初山翔選手。

受賞した 2 選手はチームメンバーへの感謝を語っていましたが、自転車は個人力とチーム力が生きる競技です。日本の経済を支える東名阪を走り抜けていく Tour of Japan は、それぞれの都市が持つ力を「日本」チームとしてひとつにつなげていくきっかけとなるイベントだと感じました。

## Event Data

- NTN presents 第20回 ツアー・オブ・ジャパン
- 2017年5月21日~28日
- 堺、京都、いなべ、美濃、南信州、富土山、伊豆、東京
- 自転車月間推進協議会

セレスポ  
Pick Up

## サステナブルイベントセミナー 「車いす体験セミナー」を開催しました!

### 車いす体験から会場設計や演出、サポート方法を考える

2017年5月24日(水)に、すみだ産業会館(東京都墨田区)にて「車いす体験セミナー」を開催いたしました。参加者自らが車いすを体験し、車いすでも楽しめるイベント会場の設計や演出、サポート方法を学ぶことを目的に、社内外あわせて約50名のかたにご参加いただきました。

当日は、バンクーバーパラリンピック銀メダリスト上原大祐氏(NPO法人D-SHIPS32代表)と、野村一路氏(日本体育大学教授、セレスポユニバーサルイベント研究所・特別研究員)を講師に迎え、講義の後に、車いすの基本操作や特徴を学び、車いすに乗ってスロープや段差、悪路、模擬キッチンカーなどを使っ



講師の野村 一路氏(左)



講師の上原 大祐氏



た体験や、サポート体験を行いました。実際に車いすの体験をすることで、「車いす移動の実情」「私たちが無意識に作っているバリア」「バリアを乗り越えるためサポート」などさまざまなことに気が付くことができた有意義なセミナーだったと、参加者のみなさまより好評をいただきました。

セレスポは、障がいの有無、性別、年齢、国籍などに関係なく、誰もが安心して楽しめるイベント環境の創出に向けて、ひきつづき積極的に取り組んでまいります。

**「車いす体験セミナー」に関する  
お問い合わせはこちら**

株式会社セレスポ  
コーポレートデザイン室(☎03-5974-1111)

**発行** 発行日：平成29年6月20日

発行元 株式会社セレスポ (CERESPO CO.,LTD.)  
〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-21-5(本社)  
TEL : 03(5974)1111 FAX : 03(5394)7651  
http://www.cerespo.co.jp/

編集 山川 謙(yawn)  
記事 コーポレートデザイン室  
デザイン ジッピーデザイン

編集後記

18世紀に自転車が発明され、自転車レースはすぐに始まったとされています。当初は、1日に長距離を走る耐久レースでしたが、自転車の進化とともに短距離から長距離まで、スピードを競う競技にも分岐していったそうです。

自転車競技は、トラック競技場でのトラック・レース、一般道を走るロード・レース、オフロードが舞台のマウンテンバイク・レースや、人工的に造られた走路でジャンプ中に技を決めるBMXなど多岐にわたり、戦うフィールドによってまったく違った魅力を感じることができます。鍛えられた脚力と、計算された作戦が導き出すスピード感とスリルは自転車競技ならではの。機会があればぜひ、観戦してみたいかがでしょうか。